

平良港 国際クルーズ拠点整備事業

事業評価に係るバックデータ

事業名	平良港 国際クルーズ拠点整備事業
-----	------------------

1. 事業概要

構成施設	岸壁(水深10m)、航路(水深10m)、臨港道路 旅客上屋	
事業期間	平成29年度～平成31年度	
事業費	92億円	

2. 費用

	単純合計	基準年における現在価値(C)
事業費	97.9億円	82.1億円
管理運営費等	21.0億円	8.0億円
合計	118.9億円	90.1億円

3. 便 益

	単年度便益	基準年における現在価値(B)
①国際観光収入の増加	44.1億円	841.6億円
②残存価値	2.2億円	0.3億円
合計	—	841.8億円

(注)端数処理により、合計は必ずしも一致しない。

4. 結 果

費用便益比(B/C)	9.3
純現在価値(B-C)	752
経済的内部収益率(EIRR)	37.4%

5. 感度分析

変動要因	基準値	変動ケース	費用便益比
需要	クルーズ隻数:250隻	±10%	8.4～10.3
事業費	92億円	±10%	8.5～10.4
事業期間	3年	±10%	9.3～9.3

6. 費用便益分析の条件

分析対象期間	50年	社会的割引率	4%	基準年度	平成28年度
--------	-----	--------	----	------	--------

事業名	平良港 国際クルーズ拠点整備事業
-----	------------------

■事業費内訳

項目	単位	数量	金額(億円)	備考
工事費				
岸壁(水深10m)	式	1	39	
本體工	式	1	39	
泊地(水深10m)	式	1	12	
浚渫工	万m3	26.8	12	
臨港道路	式	1	33	
橋梁下部工	基	9	8	
橋梁上部工	m	144	2	
道路埋立工	m	857	23	
旅客上屋	式	1	7	
建築工	棟	1	7	
合計			92	

※港湾請負工事積算基準及び類似事業箇所の実績より算出している。

■管理運営費等

項目	単位	数量	金額(億円)	備考
管理運営費	式	1	22.9	年間管理運営費0.46(億円/年)

※港湾管理者へのヒアリングにより算出している。

■概要図



便益計算

①国際観光純収入の増加

Without (整備なし)	既存施設(下崎ふ頭、漲水地区複合一貫輸送ターミナル)を利用
With (整備あり)	下崎ふ頭、漲水地区旅客船ターミナル、漲水地区複合一貫輸送ターミナルを利用

○便益計算

項目		With	Without	備考
クルーズ船寄港隻数 (隻/年)	純増	65	0	H32年におけるクルーズ需要およびWith時、Without時の受入能力を基に設定
	平均船型の大型化	185		
1隻当たりの平均旅客数 (人/隻)	純増	2,160	0	各船社へのヒアリングによる
	平均船型の大型化	2,052	1,620	各船社へのヒアリングによる
1人当たり観光消費額(円/人)		20,000		港湾整備事業の費用対効果分析マニュアルに基づき設定
国際観光純収入(億円/年)		104.0	59.9	隻数×1隻当たりの平均旅客数×1人当たり観光消費額
国際観光純収入の増加額(億円/年)		44.1		With－Without

